



# 承天寺だより



今年も後、わずかになってしまいましたね。皆様方におかれましてはお健やかに過ごしのこととお慶び申し上げます。

今年一年を振り返って、新年を迎える心の準備として静かに自省する事も大切なのではないのでしょうか。

皆さんもそうだと思いますが、一年過ぎるのが早いですね。

歳月は人を待たずと古来より申しますが、一年の月日はあつという間に水の流れの如く、静かに、時には激しく過ぎ去ってゆきます。

人間の一生は、千差万別の連続であります。この千差万別の厳しい生活の中に、生きる喜びを感じて精進する事こそ大切なことではないのでしょうか。



今年、承天寺にとって大変喜ばしい出来事がありました。

承天寺のご本尊であります聖観世音菩薩立像が芝山町指定有形文化財に指定されました。

芝山町の新たな宝として広報にも掲載されましたので、芝山町のホームページより閲覧ください。

現在、境内の排水整備を行っております。

今年のゲリラ豪雨により、境内周辺、池の周りがぐずれたため工事を進めております。

新年のお参りに支障をきたさないよう年内には完成する予定であります。



## 真言宗 智山派

普光山 (しんこうざん)  
政禪院 (せいぜんいん)  
承天寺 (しょうてんじ)

『承天寺だより』  
第七号

### 一年の計は元旦にあり

ことわざで、「一年の計画は年の初めである元旦に立てるべきであり、物事を始めるにあたっては、最初にきちんとした計画を立てるのが大切だ」という意味です。

それを新しき年に実践してみましよう、元旦に仏様に向って今年一年の目標をたててみてはいかがでしょうか。

新しき年を迎え、澄みきつた清らかな心でたてる事が大切です。

仏様の教えに、悪い行いをせず、善い行いをし、自らの心を清く保つことが大切であると。

自分のことより他人の幸せを願えるようになることが、仏様の御心に添うことになるのです。

そうすればご先祖様も必ず喜んでくださるでしょう。

まじめに努力することで、人生が決まり、身の振り方や生き方で、一家の将来も決ってくるのではないのでしょうか。

そして、晴れ晴れとした気持ちで新年を迎え、家族そろって菩提寺にお参りをしてください。

仏様やご先祖様はいつも変わらぬ清らかな姿で迎えて下さいますよ。

去年はありがとうございました。今年もどうぞ見守っていて下さい。

こんなふうに家族そろって感謝し、手をあわせたものです。

正しい月として出発するからこそ「一年の計は元旦にあり」と言うことになるのですね。

この一年の反省なくして、一年の計は成り立たないと思います。

日々の反省が大きくなり、一年の反省となり、大きな基礎となって現れてくるのです。

ご信徒の皆様にはご信仰を倍増せられ、観音さまのご加護によって明年も一層良い年になることお祈り申し上げます。

### 疱瘡(ほうそう)稲荷(坂志岡の稲荷神社)

大里・坂志岡地区の承天寺境内の小高い場所に、倉稻魂命(ウカノミタマノミコト)を祭神とする稲荷神社があります。

宝暦十年(一七六〇年)の創建で、当時流行した疱瘡を見かねて、坂志岡村の橋本礼右衛門が疱瘡の治癒に霊験あらたかとされた筑後(福岡県)の稲荷神社より勧請したと伝えられております。

このことから、疱瘡稲荷と呼ばれるようになり、皮膚全般に効能があるとされ多くの参詣者を集めました。



また、名前の「ウカ」は穀物・食物の意味で、穀物の神であるとされるため、毎年二月十一日を初午の祭礼の日として、「稲荷大明神」の幟を立てて盛大に行われ、坂志岡のお稲荷さんとしても親しまれております。

### 十二百年余の時を経て

承天寺のご本尊「聖観世音菩薩立像」が平成二十六年九月十二日に芝山町指定有形文化財に指定され、九月三十日に指定書の伝達が行われました。



十二百年余の時を経た今、ご本尊聖観世音菩薩は堂内に燦然と光輝いております。

### 境内の造成工事



現在、承天寺境内の造成工事を行っております。四季折々の木々を植樹し、春には梅、桜、秋には紅葉が楽しめるよう、工事を進めております。楽しめるには、今しばらくかかりそうですが。

### 檀信徒教化推進会議・檀信徒連絡協議会への参加

平成二十六年十一月四日に上総第四教区の檀信徒教化推進会議・檀信徒連絡協議会に、総代と世話人で参加しました。

今回の会場となったのは成田山新勝寺です。

諸堂(大塔等)や護摩の参拝をした後、光輪閣へ移動し、法話、檀信徒連絡協議会、懇親会と和やかな中無事に終了しました。



上総第四教区 檀信徒協議会 平成26年11月4日 於 成田山 新勝寺

『承天寺だより』第七号  
発行 真言宗智山派 承天寺  
〒二八九一六〇三  
千葉県山武郡芝山町大里一九七  
電話・FAX兼用〇四七九・七八・一七二〇  
(平成二十六年十二月号)  
編集 恭倫